

ランチョンセミナー15

H-FABPが奏でる ハーモニー

～心筋バイオマーカーと心エコーの融和～

座長

古川 泰司 先生

帝京大学医学部臨床検査医学 教授

演者

和田 靖明 先生

山口大学医学部附属病院 検査部 講師

2018年**8月26日**(日)
12:00-12:50

第5会場

(名古屋国際会議場 2号館3階 会議室234)

ランチョンセミナー整理券配布時間

【8/26】8:00-



H-FABPが奏でるハーモニー

～心筋バイオマーカーと心エコーの融和～

山口大学医学部附属病院 検査部

和田 靖明

ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（Heart type fatty acid-binding protein: H-FABP）は心筋細胞の細胞質に豊富に存在する低分子可溶性蛋白であり、心筋細胞内で遊離脂肪酸の細胞内輸送を行うことで心筋細胞へのエネルギー供給に重要な働きを担っている。心筋特異性が高く、心筋虚血による心筋障害が起こると速やかに循環血液中に漏出するH-FABPは、急性冠症候群や急性心筋梗塞において胸痛発症後2時間以内の超急性期から鋭敏に反応する心筋障害マーカーであり、上記疾患の早期診断マーカーとして広く臨床現場で活用されている。一方で、その臨床的有用性を世界に先駆けて本邦で報告されたH-FABPを虚血性心疾患の急性期診断にのみ用いている施設がほとんどではないだろうか。

本セミナーでは、はじめにH-FABPの基礎知識と特徴について復習した後に、虚血性心疾患の早期診断マーカーだけでなくH-FABPの臨床的有用性について学んでいただこうと考えている。さらに、H-FABPをはじめとする心筋バイオマーカーと心エコー所見を融和することにより得られる循環器疾患の診断と治療における可能性について皆様と一緒に考えてみたい。